

平成30年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (深草 幼稚園)

教育目標

心豊かに たくましく いきいきと遊び込む子どもの育成
～未来の育ちにつなぐ～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none">・身近な人（友達、先生、幼稚園兄弟、地域の方々）、生き物、自然とのふれ合いを通して感性豊かに楽しめや美しさ、良さが感じられるようになった。・何事にもあきらめずに、粘り強く、最後までやり抜く力や安全に気を付けて行動する力がついた。・さまざまな事象に興味関心をもち、自ら挑戦していく力、考えて行動する力も少しずつついてきている。 <p>○幼児期に育った力がよりよい社会をつくる力の基礎となっていくことを見通し、今何が大切かを見直し、保育の質の向上、充実を図っていく。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>幼稚園兄弟と共に学校運営協議会（なかよし会）もかかわった一年であったが、様々な人に出会うという貴重な体験になっていた。園外保育や園内の生活で一緒に過ごしながら、互いの良さや自分とはちがう面に気づく機会にもなっている。また、その中で親しみや思いやりの気持ちが育ってきているのではないかと考える。いろいろな行事に参加したが、どれも概ね良い取組だった。小学校へ入学しても成長の様子を見守っていきたい。地域の方に見守られていることを保護者も実感し、安心感をもってほしい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	8月24日	保護者、教職員、学校運営協議会
最終評価	3月 8日	保護者、教職員、学校運営協議会

(1) 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実

具体的な取組

- ・自分のしたい遊びを見つけ、夢中になって遊び込むための環境構成や援助の見直し、再構成や実践
- ・教師との信頼関係を基に安心・安定を基盤とし、それぞれの発達に応じて、身近な人に主体的にかかわる楽しさや喜びを味わうための環境構成や援助
- ・子どもが様々に心を動かし、試したり挑戦したり、やり遂げるための保育環境の工夫や援助
- ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方とのかかわりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践
- ・協同する遊びや生活の意図的な投げかけ
- ・幼稚園兄弟を意図的につくり、年間を通して異年齢児がかかわる機会を設定

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・幼児の遊び姿、自己発揮、自己充実しようとする姿の変容・週案の反省、評価・エピソードの検討
- ・アンケート項目

- ① 「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」
- ② 「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」
- ③ 「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」
- ④ 「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」
- ⑤ 「自然とかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか」
- ⑥ 「手洗いうがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしているか」

中間評価

各種指標結果

- ・幼児の遊ぶ姿、自己発揮、自己充実しようとする姿の変容・週案の反省、評価・エピソードの検討
- ・アンケート項目

①	「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」	大変そう思う 86%	そう思う 14%
②	「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」	大変そう思う 84%	そう思う 16%
③	「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」	大変そう思う 53%	そう思う 44%
④	「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」	大変そう思う 81%	そう思う 19%
⑤	「自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか」	大変そう思う 65%	そう思う 34%
⑥	「手洗いうがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしているか」	34%	61%

自己評価

分析（成果と課題）

「主体的に遊ぶ子どもを育てるためには」という研究主題から、遊びや生活の中で子どもたちが主体的に力を発揮するための教師の援助や環境構成について見直すようにした。昨年度からの積み重ねから、人とのかかわりに関して信頼関係は厚く、子どもの変容にもよい姿が見られ、保護者アンケートの結果も良好である。自然栽培活動の取組にも理解を得ている。基本的生活習慣については、まだ援助を必要とする場面も多くみられ、家庭と共に今後の成長を見ていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

子どもが様々に心を動かし、試したり挑戦したりするための保育環境の工夫は、教職員もアイデアを出しながら構成し、取り組んでいる。基本的生活習慣の自立が心の安定や意欲、自信につながることを踏まえ、家庭との連携を今後も深めていきたいと考える。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿、自己発揮、自己充実しようとする姿の変容・週案の反省、評価・エピソード検討
- ・アンケート項目

①	子どもは自ら遊びをみつけ、幼稚園で遊ぶことを楽しんでいるか。
②	自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを聞いたりして一緒に遊ぶことを楽しんでいるか。
③	幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか。
④	体を動かして遊ぶことを楽しんでいるか。
⑤	自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか。
⑥	持ち物の準備や着替え等自分のことを最後までやりきろうとしているか。
⑦	月便りなど通して子どもの育ちや学びが伝わっているか。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・子どもたちも親しみをもって声をかけてくる。名前も覚えていきたい。学校運営協議会の方も子どもたちの成長の姿を見ることが出来てうれしいと思う。
- ・今年新たなメンバーを迎える、これからもできるだけ保育に参画できるようにしていきたい。
- ・幼稚園兄弟というのは、子どもにとっては葛藤することもあるかもしれないが、いろいろな感情体験することも大事である。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

①	子どもは自ら遊びをみつけ、幼稚園で遊ぶことを楽しんでいるか。	大変そう思う 85%
②	先生や友達とかかわることを楽しんでいるか。	大変そう思う 70%
③	自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを聞いたりできる。	大変そう思う 25%
④	幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか。	大変そう思う 75%
⑤	体を動かして遊ぶことを楽しんでいるか。	大変そう思う 85%
⑥	自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか。	大変そう思う 55%
⑦	持ち物の準備や着替え等自分のことしようとしているか。	大変そう思う 37%
⑧	月便りなど通して子どもの育ちや学びが伝わっているか。	大変そう思う 68%

自己評価

分析（成果と課題）

①	子どもたちが幼稚園での遊びや生活を楽しみ、主体的に遊びを見つけて遊ぶ中での育ちについて理解を得ることができた。
②	前期に比べると、子どもたちも自分の思いが出てきて友達同士のかかわりでもさまざまな葛藤が出てきているので評価が厳しくなったと考えられる。どの時期においても一人一人の子どもに寄り添いながら、丁寧なかかわりを心がけていきたい。

③ 「自分の思いを伝える」という面は、自由な場面ではのびのびと話せているが、両学年ともに困りやその場の状況に応じた必要な言葉が使えるなどに少し課題が見られると考えている。「相手の思いを聞く」という面では、「話を集中して聞く」という点でも課題が見られる。

④ 幼稚園兄弟とのかかわりは、成長した子どもたちの姿から互いに思いやりをもって接することができるようになったことを感じ、幼稚園兄弟の取組に理解が得られるようになった。

⑤ 園庭の広さを活用してリレーやマラソン、縄跳びなど体を動かして遊ぶことで心の育ちが見られたことを感じていただけた。今後も引き続き、自己肯定感が育つような取組を継続したい。

⑥ 夏に比べると栽培物の種類が変わり、活動が見えにくかったかもしれない。飼育物に関しては、年長児から小動物の世話を引き継ぎ、年少児に進級への期待が見られる。生き物を大切に想う気持ちを育んでいきたい。

⑦ 持ち物の準備など自分の身の回りの始末に関しては、進級や入学前で保護者の願いが高くなり、評価が下がっている。忘れ物についても気をつけていきたい。

⑧ 幼稚園の保育の充実が子どもたちの育ちにつながっていることを感じていただけたと考えるが、今後もより理解が深まるように発信していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・子どもたちが主体的に周囲の環境にかかわり、夢中になって遊べるように、より保育の充実を目指し、遊びや生活との連続性を考えた環境構成や教師の援助の研修を重ねる。
- ・子どもたちが主体的に遊ぶことでどのような力が育っていくのか、育ってほしい10の姿へとつながっているのか、今後も見直していく。
- ・幼児期の育ちは家庭での過ごし方が大きく影響することなど踏まえ、幼稚園での取組の理解と協力をお願いすると共に、子どもたちの育ちをより具体的に機会を見つけて発信し、育ちと共に喜び合えるような温かい関係をつくっていく。

重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・幼児は主体的に遊ぶ姿を重視した保育が概ね達成できたと考えるが、外部への発信などが少なく、保護者理解につながらなかつた部分もあるので、今後も幼児期における主体的・対話的で深い学びの視点から保育を見直し、研修を深めたいと考える。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・「自分の思いを話す・相手の話を聞く」などは、高いめあてのように感じるが、先生方が感じられるのであれば大事なことなのだろう。最近世間一般でスマートフォンなどの情報通信機器の普及により、子どもの話を丁寧に向き合って聞くということが家庭で出来ているのか心配になることがあった。子育ても昔とは変わってきたが、大事なことは変わらない。学校運営協議会でできることがあれば協力する。子育てで何が大事なのか、地域でできることは何かを意識していきたい。

(2) 小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

具体的な取組

- ・互いの思いや考えを出し合い、活動を進めていくための小グループでの協同的な活動を計画的に位置づける。
- ・遊びを通して、試したり、挑戦したり、やり遂げたりする力や自信につながるための環境構成や援助
- ・「親子で絵本！」のノートを活用し、様々な絵本や物語との出会いを基に豊かな創造性や言語に対する感覚などの育成
- ・エピソードを基に幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を見取り、小学校へ伝えていく。
- ・「学びに向かう力」を明記したアプローチカリキュラムとしての週案の作成

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・連携のエピソード検討
- ・連携交流保育の回数や合同研修の回数
- ・『親子で絵本』の活用度
- ・アンケート項目

- ① 「小学校との連携を進めているか」
- ② 「絵本を見たり、お話を聞いたりすることが好きであるか」
- ③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」

中間評価

各種指標結果

- ・連携のエピソード検討
- ・連携交流保育の回数や合同研修の回数
- ・『親子で絵本』の活用度
- ・アンケート項目

- ① 「小学校との連携を進めているか」 大変そう思う 70% そう思う 30%
- ② 「絵本を見たり、お話を聞いたりすることが好きであるか」 大変そう思う 55% そう思う 42%
- ③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」 後期に挙げる

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立てて見通しをもって取り組むことができている。 ・2年生との交流の中で教室の座席に座ったりランドセルを背負わせてもらったりしたことは、子どもたちにとって小学校就学への期待となった。小学校側の交流するクラスが変わるのでつながりを深めることは難しいが、事後の話合いも出来るようになり、幼小教職員同士の共通理解はしやすくなっている。年長の保護者からは幼小連携交流の理解は得られたが、該当学年以外では伝わりにくい面もあり、説明会の折など具体的に伝えていきたい。 ・アプローチカリキュラムは作成中である。 ・今年度は「親子で絵本デー」の日を設け、毎週の貸出し以外にも親子で絵本に親しむ機会を増やした。少しづつ浸透してきている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続は事前の話し合いはするが、事後の話し合いは時間を持ってすることが少ないので、小学校と互いに意識できるようにしていきたい。今年度は1年生との交流も新たに取り入れ、運営協議会にもご協力いただく予定である。 ・アプローチカリキュラムを基に週案の内容を充実していく。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携のエピソード検討・連携交流保育の回数や合同研修の回数・『親子で絵本』の活用度 ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ①小学校・中学校との連携を大切にし、人とかかわろうとする力や憧れの気持ちにつながったか。 ②絵本を見ることや絵本貸出しを楽しみにしているか ③遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるようになったか。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼稚園でかかわった子どもたちが、小学校で頑張っているのを見ると嬉しく、応援したくなる。これからもつながりをつくっていきたい。地域の子どもが地域を好きだと思ってくれると嬉しい。預かり保育の絵本読み聞かせでは、季節の絵本や子どもが喜びそうなものを選んでいるが、みんな興味をもって聞いている。</p> <p>小学校入学に向けて、身辺自立と同様に精神的な自立ができるようにすることも大事である。</p>

自己評価	<p>最終評価</p> <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <table> <tr> <td>① 小学校との連携を進めているか。</td><td>大変そう思う</td><td>68%</td></tr> <tr> <td>② 絵本を見たり、お話を聞いたりすることが好きであるか。</td><td>大変そう思う</td><td>61%</td></tr> <tr> <td>③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」</td><td>後期に挙げられなかった</td><td></td></tr> </table>	① 小学校との連携を進めているか。	大変そう思う	68%	② 絵本を見たり、お話を聞いたりすることが好きであるか。	大変そう思う	61%	③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」	後期に挙げられなかった	
① 小学校との連携を進めているか。	大変そう思う	68%								
② 絵本を見たり、お話を聞いたりすることが好きであるか。	大変そう思う	61%								
③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」	後期に挙げられなかった									
<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校など他校種との連携においては、実際に交流している年長児保護者とこれから経験する年少児保護者の評価が異なり、評価が伸びなかった。幼稚園としての取組であることを丁寧に伝え、育ちをつなぐ連携を大切にしていることが理解できるように努力していきたい。 ② 親子読書ノートの記述からも親子での読書を大切にされていることが伺える。今年は親子絵本デーの取組も始めたので、今後も親子で読書する機会を大切にしたい。 ③ 運動会後のアンケートの中から、子どもが試したり挑戦したりしていることで心身共にたくましくなっていることを感じていただいた。 										
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階以降の学習につなげる視点で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について研修を重ねてきた。教員の保育の見直しと子どもの育ちを見取ることはできた。小学校との連携においても事前事後の研修をしたり教員同士の子どもの育ちの共有が出来たりした。しかし、公立幼稚園として近隣の保幼小に幼稚園が育むべき資質・能力の基礎を総合的に育成していることを積極的に伝えることに関しては、引き続き前向きに進める必要がある。 										

<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での遊びや生活の姿からのエピソードを基に、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などが育っているかを園内で継続的に検討することができ、小学校段階への学びにつながっていることを確かめることができた。しかし、近隣の小学校五学区への交流は進んだが、幼稚園が育むべき資質・能力の基礎を育成していることを発信することがもっとできたのではないかと思うので今後も具体的に発信していきたい。
--

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は深草小学校の2年生だけでなく、1年生とも学校運営協議会を通して昔遊びの交流をすることが出来たが、その成果はあったのかという質問を受けた。事前の打ち合わせが少なく、その場では初めての経験に戸惑いをもつ姿はあったが、そこで1年生の姿を見て幼稚園に戻って遊びに（けん玉やこま）取り組もうとする姿が見られ、大きな刺激を受けたことを伝える。これからも1年生との連携を大切にしてほしい。

(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む心と体・生活習慣

具体的な取組	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達を捉えながら、体を動かし、身体諸機能の調和のとれた発達を促すための保育環境の構成や援助 ・一人一人の課題を明確にし、家庭と連携しながら基本的生活習慣の確立に向けた援助 ・自分のことを自分でできる実感から自立心、自信につながる援助
(取組結果を検証する) 各種指標	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価 ・アンケート項目 <p>①「手洗いうがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしているか」 ②「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」 ③「積極的に体を動かして遊べる環境を用意しているか」</p>

中間評価

各種指標結果	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価 ・アンケート項目 <p>①「手洗いうがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしているか」大変思う 34% そう思う 61% ②「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」 大変そう思う 81% そう思う 19% ③「積極的に体を動かして遊べる環境を用意しているか」 後期に挙げる</p>
自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の定着に関して、保護者が自分の子どもに対する評価が厳しい。家庭と幼稚園が具体的に課題を共有し、温かく援助し、子どもたちの自信につなげていきたい。 ・5歳児は竹馬やプール遊びからめあてをもちだし、自信が付き始めた。体を動かして遊ぶ心地よさや友達と協力する楽しさを味わうようになった。 ・4歳児はさまざまな身体機能を動かせる遊びを週案で意図的に考え、工夫している。 ・今後も園庭の広さを活かし、身体諸機能を使う遊びや生活を園全体でできるようにしていく。
分析を踏まえた取組の改善	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き朝ごはんの定着と共に身辺自立は家庭との連携が必要なので、家庭と共に協力しながら指導していきたい。また、子どもたちの成長を保護者にも丁寧に伝えたい。 ・運動を伴う遊びを引き続き週案に明確化していく。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<p>週案の中の運動遊びの取り入れ方及び反省、評価 アンケート項目</p> <p>① 持ち物準備や着替え等自分のことをしようとしているか。 ②体動かして遊ぶことを楽しいと感じているか。 ③積極的に体を動かして遊べる環境を用意しているか。</p>
学校関係者による意見・支援策	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の様子や園外保育に出かける様子を見て、心身の成長を感じた。園外保育などは大変だが、子どもの体験には必要なことなので協力できることはしていきたい。 ・さまざまな体験活動の場にかかわっていきたい（昔遊び、ボール遊び、園外保育など）

最終評価

自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>① 持ち物の準備や着替え等自分のことをしてやっているか。 大変そう思う 37% ② 体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか。 大変そう思う 85% ③ 積極的に体を動かして遊べる環境を用意しているか。 大変そう思う 85%</p>
	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>① 両学年共に進級や入学を前にして願いが高くなる傾向があり、毎年課題としている項目である。課題を感じることを受け止め、家庭と連携を図りながら力がつくように取り組みたい。子どもに任せきるのではなく、自覚できるように声をかける・共に準備することなどが定着できるようになる一歩であることを伝えていきたい。忘れ物も多いので保護者の意識も高めていきたい。 ② 園庭の広さを活用し、鬼ごっこやリレー、マラソンなど積極的に行なうことが出来た。心も体もいきいきと遊べるようになったことが感じられた。今後も魅力ある園庭や遊具となるように整備を進め、身体諸機能の発達を促していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を形成することは、家庭での連携が重要である。発達年齢などを踏まえ、家庭と共に子どもたちの自己肯定感や自立（自律）が育つかかわり方について考えていきたい。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や教員と共に、心や体を動かしていきいきと遊びこめる子どもたちが多い。幼児期は心と体の発達が密接に結びついている時期であることを踏まえ、身体諸機能の調和的な発達を促すことが出来る環境や援助を今後も見直していく。基本的生活習慣については、丁寧に見直していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での持ち物の準備など、自分を自分のこととして最後までやりきろうとする事は、毎年課題となることでもある。これは、遊びにも通じるものがある。何事もやってみよう、諦めないでやりきろうとすることにつながるのではないか。幼さを感じる面もあるので、自立に向けて家庭と協力してほしい。

(4) 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での安心感につながるよう信頼関係（子どもと教師、保護者と教師、子ども同士）を構築し、興味のある遊びや新たな関心を基に自己発揮できる遊びや生活の展開 ・身近ないろいろな人とかかわる機会を設定するとともに、人とかかわる楽しさを十分味わい、大切にされているうれしさや安心感を実感できる保育の展開 ・自己発揮するとともに他者との折り合いの場面ができるような協同する遊びや生活を重視した保育の展開
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 <p>①「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」 ②「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」 ③「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」 ④「自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりしていますか」 ⑤「地域とのつながりを大事にしているか」</p>

中間評価

各種指標結果	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目
	<p>①「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」 大変そう思う 86% そう思う 14% ②「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」 大変そう思う 84% そう思う 16% ③「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」 大変そう思う 53% そう思う 44% ④「自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりしていますか」 後期に挙げる ⑤「地域とのつながりを大事にしているか」 大変そう思う 75% そう思う 25%</p>
自	<p>分析 (成果と課題)</p>

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 教師との信頼関係が出来、喜んで幼稚園に来ている。 友達同士のつながり（年長）や気の合う友達（年少）が出来つつあり、一緒に遊ぶ楽しさや喜びを感じている。しかし、自分の思いを主張することもあり、他者の思いに気づき、気持ちに折り合いをつけることに時間を要することもある。発達に見合った指導をしていきたい。 幼稚園兄弟の取組の中で、子ども同士のかかわりや育っている力（思いやりや愛着等）をより具体的に保護者へ発信し、理解を得るようにしたい。 今年度は、地域の方と子どもたちがかかわっている姿を、参観を通して保護者に見てもらえるようにしたことで、地域とのつながりに対する理解がより深まった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 人とのつながりは幼児期に育てたい姿の基盤となる部分であるので、引き続き温かい人間関係づくりを目指していきたい。個に合った指導については園内で共通理解し、教職員もかかわっていきたい。 年齢に応じて協同する楽しさが味わえる機会や環境づくり、援助を今後も意識していきたい。また、それと同様に精神的にも自立していけるような援助や取組もしていきたい。
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>アンケート項目</p> <p>①子どもは自ら遊びをみつけ、幼稚園で遊ぶことを楽しんでいるか。 ②自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを聞いたりして一緒に遊ぶことを楽しんでいるか。 ③幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか。 ④地域とのつながりを大事にしているか。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園での遊びを通しての学びが小学校の学習につながることを改めて感じることが出来る。子どもたちが地域で安心して過ごせるようにかかわっていきたい。子どもたちも保護者の方も入学後、安心して小学校へ通えるようにサポートしていきたい。

最終評価

自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <table> <tr> <td>① 子どもは自ら遊びをみつけ、幼稚園で遊ぶことを楽しんでいるか。</td><td>大変そう思う 85%</td></tr> <tr> <td>② 自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを聞いたりできるか。</td><td>大変そう思う 25%</td></tr> <tr> <td>③ 幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか。</td><td>大変そう思う 75%</td></tr> <tr> <td>④ 地域とのつながりを大事にしているか。</td><td>大変そう思う 77%</td></tr> </table> <p>分析（成果と課題）</p> <p>① 子どもたちは自分が受け入れられているという安心感のもと、自分の世界を広げ、自己発揮することが出来ている。個々に課題を抱えている場合もあるので丁寧に見ていきたい。</p> <p>② 困ったことや必要に応じた言葉が出にくい姿はあるが、人に対する信頼や思いやりの気持ちは育ってきている。うまく表現できるように発達に応じた保育を展開していきたい。</p> <p>③ 幼稚園兄弟とのかかわりは、成長した子どもたちの姿から互いに思いやりをもって接することができるようになったことを感じ、幼稚園兄弟の取組に理解が得られるようになった。年少児は、年長児の修了を寂しく感じている子どももあり、つながりの深まりを感じる。</p> <p>④ 地域とのつながりに関しては、子どもたちが地域の方へと親しみをもっている姿から保護者の理解、地域の方への感謝の思いにつながっている。これからも地域の方からたくさん愛情をいただき、安心感や地域を大切に想う気持ちを引き続き育てていきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いに寄り添い、集団の中で子どもが自信をもって力を発揮し、満足感を得られるような援助、また、他者の気持ちに気付き、自分の気持ちに折り合いがつけられるような援助について話し合っていきたい。個々の発達に応じた支援についても研修を深めたい。 学校運営協議会の方との連携も新たな取組や大事にしていきたい取組を考え、共に子どもたちのために協力していただけるようにしていきたい。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を概ね達成できたが、次年度は園児数も減るので、集団の中での子どもの育ちについて計画的に集団で遊ぶ機会をつくっていく必要性を感じている。 	① 子どもは自ら遊びをみつけ、幼稚園で遊ぶことを楽しんでいるか。	大変そう思う 85%	② 自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを聞いたりできるか。	大変そう思う 25%	③ 幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか。	大変そう思う 75%	④ 地域とのつながりを大事にしているか。	大変そう思う 77%
① 子どもは自ら遊びをみつけ、幼稚園で遊ぶことを楽しんでいるか。	大変そう思う 85%								
② 自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを聞いたりできるか。	大変そう思う 25%								
③ 幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか。	大変そう思う 75%								
④ 地域とのつながりを大事にしているか。	大変そう思う 77%								

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・今年はもちつきに参加し、おやじの会のお父さんともかかわることが出来た。なかなかお父さんとかかわる機会などないので、貴重な機会だったと思う。地域でも衛生面などでもちつきは控える傾向になっているが、保護者と運営協議会が触れ合える大事な行事だと考える。幼稚園や家庭だけでは補い切れない子どもたちの体験を深める役割を今後も担っていきたい。・入園式の頃と比べると、子どもたちの成長を感じることが出来る。幼児期の子どもの成長にはいつも驚かされる。
-----------------------------	---